

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102675
法人名	医療法人社団 青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第五若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町1643番地 (電話)087-888-0202

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月24日	評価決定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年 11月 4日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計 27人
職員数	25人	常勤 14人, 非常勤 11人, 常勤換算 23.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建て
------	--------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	1,800円+実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400円	

(4)利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	8名	女性	19名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	14名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.6歳	最低	55歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会ミタニ藤田病院・さくしま歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な雰囲気づくり、楽しい共同生活、一人ひとりに即した援助」の三つの理念を掲げ、運営しているグループホームである。また独自の理念「心ある介護」をテーマに日常の一場面を大切に介護を展開している。建物は田園に囲まれた落ち着いた平屋で、玄関を中心に3ユニットが配置されている。ユニット間の行き来も在り3ユニットの特徴を生かしたケアが行われている。レクリエーション活動に力を入れており、活動を通して楽しい共同生活が出来る様に工夫がされている。また個別性を尊重し、聴覚障害者へのケアを円滑に展開するためにスタッフは独学で手話を覚え、援助が適切に行われるように努力を重ねている。隣接した医療機関との連携が確保されており、緊急時の対応もされ、安心して生活できる体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>従来は五つの若葉荘合同の便りであったが、「第五若葉荘だより」を発行している。見えにくかった表札を大きくするなど改善結果を残している。また実現できなかった項目についても、課題意識を持ち、実現出来る様に引き続き協議している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに職員全員から意見を聞くことで、ユニットごとの評価・改善に向けた取り組みが積極的に実施されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度から民生委員をメンバーに加え、より地域に密着した運営推進会議の拡充に取り組んでいる。事業内容の報告・意見交換だけでなく、地域の防災組織化や外出機会の拡充による地域交流などについても話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱は、職員の目に触れにくい場所に設置され、投函し易い状況を作り出している。意見箱での要望は出しにくい事を理解し、面会時のコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築により、忌憚のない不満・要望などが引き出せるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の文化祭やお祭りに入居者と共に参加したり、入居者の作品を地元小学校のバザーに出品し交流をはかっている。また民生委員や自治会長と話し合ったりして、地域との連携拡充に向け努力をしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的雰囲気作り、楽しい共同生活、一人ひとりに即した支援」を掲げ取り組んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を共有し、実践に向けてケアに生かす努力がされている。例えば、耳の不自由な方に対して、職員が独自で手話を勉強し対応している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭に参加、祭りには獅子舞が来てくれ、全員外へ出て歓迎している。幼稚園には入居者の作品を展示してもらっている。日常的に散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わす等地元の人達との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で関わり、改善点を確認し対応を考えている。運営推進会議に報告し意見を頂くなどサービスの向上に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催されており、次回の開催日をその場で出席者の意見を踏まえて決定している。メンバーについても意見をもらい、民生委員の出席を得て意見交換がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席時に意見をもらっている。	○	運営推進会議だけでなく、地域包括支援センターとのかわりを密に持ち、指導や気軽に相談が出来る関係を持ち、サービスの質の向上に努めていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当制をとっており、2カ月に1回、担当者より日常生活、レクリエーションへの参加状況など「家族様へ」により報告している。また家族の面会が多く、随時報告もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置されているが、今までに入ったことはない。家族が面会に来た時によく聞き、その都度対応している。今までに大きな苦情、不満は出されていないが、なんでも気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動がある。	○	馴染みの関係を大切にし、取り組むことを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行なわれており、自主参加である。そして施設内での報告等も行われている。	○	職員の段階に応じて研修受講計画を立て、事業所外の研修も出来るだけ受講出来る取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と他施設の友人という個人的なかかわりから情報交換がされている。	○	今後近隣の他法人の同業者との交流の機会を持ち、相互訪問、学習会などを持ちサービスの向上を目指した取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを案内し、本人、家族も馴染んでもらっている。また前の施設での状況を管理者が出向き面談し把握(ADL、介護、部屋の状況等)、ケアも環境も出来るだけ近い状態になるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしく」を尊重し、個々の生活歴を大切に取り組んでいる。編み物、調理の得意な人等に職員も学ばせてもらったり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな事を聞き取り、楽しみたい事を選んでもらうなど工夫し、希望、意向の把握に努めている。「銭湯に行きたい」など出されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本位の暮らしが実現出来る様に生活歴をケアプランに取り入れるなど、本人・家族から情報をもらい、個別ニーズに対応するように取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは勿論のこと、入居者は日々変化するので、これに対応すべく随時話し合いをし見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者が安心して暮らしていけるために墓参り、通院等必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族にかかりつけ医についてアンケートを行い、これに基づき本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診になっているが、不可能なときは職員が代行するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関・かかりつけ医や関係者と連絡を取り方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に言葉かけについては注意している。入浴時、着替えの時などプライバシーの保護に努めている。年4回処遇会議を持っており、職員同志常に研鑽に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にその対応に努めている。一人で居るのが好きという人、食事のときだけ皆と一緒にいる人、横になっていた人等個別性を尊重し出来るだけ希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専属の職員一人が一つのユニットでまとめて作り、他のユニットから応援をするという形がとられている。調理を受け持っているユニットは入居者のできる皮むきなど一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一般浴週2回、特浴週2回で対応している。入浴の順番についてはアンケートを実施し、本人の希望を尊重し、納得のうえで実施している。更に足浴用の木箱が出来上がり、庭で秋から実施の予定である。4～5人は入れるのでコミュニケーションの場となることを期待したい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、家族の情報から得意分野を見出し、裁縫、調理(皮むき)、食卓の準備など、無理強いすることなく支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけで過ごすことなく周辺の散歩、更になるべく外に出られるように週1回レクリエーション(すいか割り・ソーメン流しなど)を計画している。月に1～2回は車で外出(満濃公園・鶴亀公園等)に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の入居者が興奮状態のときは鍵をかけて対応している。玄関に“開放しています”と看板が掛けられているのも一つの工夫と思われる。センサーも付けられており鍵をかけないケアに向けて取り組んでいる。	○	職員の見守り、対応などにより施錠時間をなるべく短くしていこうという意欲が感じられたので、今後の取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の避難訓練を実施している。避難経路についても掲示され、対応についての連絡先も職員は把握できている。	○	火災は防ぐことが出来るが、災害は事前に防ぐことが難しいので、災害時の対応について地域との連携をより具体的に深めていく取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作り、摂取量については毎食記録されている。もともと小食の人には無理強いを決してしていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間廊下・食堂など入居者の作品が展示されている。季節の花、植木鉢なども置かれており居心地よく過ごせるように取り組まれている。トイレは1ユニットに3箇所在り、車椅子用、一般用とある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、好きなようにアレンジされ、個別性の尊重がうかがえる。仏壇を置いている方、花を生けている方など本人の好みを大切に、居心地よく過ごせるようにしている。		